

「文学国語」シラバス

学科	普通科	学年	2 年	類型	I・II	組	1・2 組	単位数	2
使用教科書	探求 文学国語（桐原書店）								
副教材等	大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000（尚文出版） カラー版新国語便覧（第一学習社）								

1 学習の到達目標

①	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
②	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	(6)(7)(8)(9)(10) (11)(12)
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	(6)(7)(8)(9)(10) (11)(12)
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	(1)(2)(3)(4)(5)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1) グループワーク等での対話への取組 (2) 発問に対する応答	
言語活動の観察	(2) 言語活動への参加状況 (4) 学びの関連付け、活用への取組	
課題などの提出状況	(5) リフレクションシートの内容 (6) 長期休業中の課題 (7) 日々の課題	
発表・報告	(8) ポートフォリオ (9) プレゼンテーション	
ペーパーテスト	(10) 定期テスト (11) 校内模試 (12) 小テスト	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	感触―世界のリアル	・筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自身の人生や自己を取り巻く世界を言葉で表現しようとするこの意味を考え、小説・文学の意義について考えるきっかけを得る。	(7)
	ランドセル	・心情描写や人物の造型に着目しながら、小説を読む基本的な方法を習得する。また、作品の読み解きを通じて自身の人生を振り返り、そこで考えたことを他者に伝える表現で適切な分量にまとめる。	(9)
	もののふの心―言葉とコトバ	・用語の使い分けや引用文の用いられ方に注意しながら、評論の内容を的確に捉えるとともに、文学の基盤となる言葉の働きについて、自身の考えを深める。	(8)
	山月記	・登場人物の行動や心理を的確に把握しながら内容を理解し、人間の存在についての考えを深める。また、作品の典拠に触れたり、作者の創作手法に迫ったりすることで、自身の創作活動へと生かす。	(9)
	天景・猫 永訣の朝	・詩を読む基本的な方法を習得する。また、詩の言葉がいかに多彩で変化に満ちたものであるかを理解し、自身の言語力を高め、ものの見方を深める。	(7)(8)
二 学 期	復讐	・独特の世界観を持つ小説を読んで、戯曲的な会話進行によって浮かび上がる人物造型の妙を味わう。	(7)(9)
	麦わら帽子のへこみ 短歌八首 俳句八句	・短歌・俳句という短詩型文学の特質を理解し、さらにそれらの作品を読み味わうことで、自身の感性や観念の拡充・深化を図る。	(7)(8)
	靴の話 根府川の海	・戦地での極限体験を描いた小説、終戦翌日の体験を描いた詩を読んで、戦時期における青少年の心理状態を読み取る。また、戦争が人生に及ぼす影響を、自身に引き寄せて考える。	(8)
	虫のいろいろ	・透徹した観察眼による対象物や自身の心理の描写を読み味わい、私小説という小説の一ジャンルのありようについて考える。	(9)
三 学 期	日曜日はどこへ	・浮遊感のある小説を時間軸に沿って丁寧に読み進め、登場人物の心情を的確に読み取り、さらにこの先の展開についても想像する。	(7)
	餓鬼道としての詩	・引用文の用いられ方や筆者独特の表現に注意しながら、評論の内容を的確に捉えるとともに、詩のありようや享受のしかたについて、自身の考えを深める。	(8)
	こころ	・まとまった分量のある小説を読んで、作品構造の理解の下に、場面展開や登場人物の心理変化を捉える。また、主題の把握を通して、近代人の孤独や心の不可思議さについて、自身の考えをまとめる。	(8)(9)

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(10)(11)(12)については、すべての単元において評価項目として用いる。